

2017年度北海道YMCA事業報告

理事長 土屋 博
常議員会会長 高杉 純二
総主事 秋葉 聡志

多くの会員並びに関係者の方々にご尽力ご支援をいただき、2017年度事業を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

2016年度日本のYMCAは、YMCAブランドの見直し作業の過程でブランドコンセプトを開発しました。その中でYMCAが実現したい社会の姿であるブランドビジョンとして「互いを認め合い、高め合う『ポジティブネット』（互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク）のある豊かな社会を創る」ことがうたわれました。このYMCAブランドコンセプトを踏まえながら、2017年度、北海道YMCAは創立120周年を迎えることを覚え、様々な記念事業を通じて北海道YMCAの使命を再確認するとともに、会員活動の活性化を図ることに努めました。また、全国YMCAと協働してYMCAブランドの見直しを推進し、合わせて北海道YMCAにおけるブランドの見直しに取り組みました。さらに、将来構想委員会と連携しつつ、北海道YMCA中期3ヶ年計画を策定し、その1年目として、各部・ brunchの事業を推進することができました。

（公益目的事業）

1. ウエルネス事業

（1）スポーツ活動

幼少年スポーツ活動は、札幌の水泳クラスでは、講習会や水の安全教室を継続して実施し、募集広報活動を強化することにより、幼児や小学校低学年層の会員が増加しました。フロアクラスでは、120周年記念事業の一つとして11月からクライミングウォールが設置・導入され、新たなプログラムにより会員が増加するとともに、他の部門や他の団体と連携することによって、様々なプログラムで活用できる可能性を知ることができました。また、水泳、フロアクラスで評価ノートの導入を実施し、継続して子どもの成長と課題の「見える化」に取り組み、課題解決型のプログラムへと転換を進めました。発達支援水泳クラスは、YMCA児童デイサービス「さんかく」との連携を強める努力を継続し、入会待機者の解消に努めましたが、全員を受け入れることはできませんでした。サッカークラスは、実施会場・クラスの統廃合を行い、サッカー事業は縮小しましたが、スタッフを館内プログラムに集中させることにより、幼少年全体で会員の増員を図ることができました。

北見、とち帯広 brunchでは、アフタースクール、デイケアスクールの課外活動として多様なクラスを展開できましたが、北見、とち帯広とも公共施設を利用する指導環境の違いから札幌含め各 brunch間でのプログラムの質的な差が生じており、改善に向けてウエルネス事業担当者会を組織し、指導者研修会を年間3回、各 brunchで実施しました。

青年、成人活動は、札幌 brunchを中心に、中高年を対象にした会員区分の増強を目指し、体験を重視した地域密着型の広報に努めましたが、会員数を維持するにとどまりました。また、中高年対象の総合的なプログラム展開へ向け、フラワーアレンジメント、歌声体操などの文化教養系プログラムを試験的に実施しました。

(2)地域支援活動

各ランチとも地域の幼稚園、保育園の要請により、継続して専門指導者による基礎体育、レクリエーション等の指導を行いました。また、全国のYMCAと協働して、水の安全キャンペーンを展開し、水上安全ハンドブックを地域の幼稚園・小学校に配布するとともに、着衣水泳体験会を通して水難事故防止と人命救助法について学ぶ機会を提供しました。特に札幌では、昨年度に引き続き、近隣の山鼻小学校と連携し、授業として学校プールで3日間に渡り全児童に水の安全教室を実施しました。また、本年度は山鼻小学校に加えて、二条小学校でも水泳授業を実施することができました。12月には、クライミングを用いた人間関係づくりワークショップをモンキーマジック、オオドオリ大学、北海道札幌視覚支援学校などの他団体と連携して実施しました。

とち帯広ランチでは、120周年記念事業として、8月にリトミックの保育者向け講習会と園児体験会を実施し、多くの地域の方に参加いただきました。また、ウエルネス指導者研修を地域の幼稚園指導者にも公開しました。

2月には全国YMCAとの共同プログラム、いじめ反対キャンペーン「ピンクシャツデー」を各ランチで実施し、合わせて暴力防止のための予防教育プログラムCAPと協働して子どもをいじめから守るための公開ワークショップを各ランチで開催しました。

(3)野外教育活動

日常野外活動は、それぞれのランチの地域性を生かした多様なプログラムを展開することができました。

キャンプは、札幌圏では送迎バス費用の高騰に伴い一部参加費を値上げするとともに、送迎体制を見直しましたが、全体的に参加者が減少しました。特にチミケップキャンプの参加者減少が大きく、キャンプの再生に向け、中期的な視点をもって各ランチ担当者のタスクチームで検討を始めています。また、チミケップ中高生キャンプを120周年記念事業に位置付け、台風被災地の南富良野町から5名を招待しました。

スキーは、各ランチとも指導員の他にリーダーが配置されるというYMCAの独自性とSAJ公認校としてのメリットを融合させた質の高いプログラムの提供に努めました。春スキーでは、とち帯広、北見ランチが共同してサホロスキー場で合同プログラムを実施しました。また、全国協働として、ニセコで実施された福岡YMCAのスキーキャンプに札幌ランチから指導員を派遣しました。

(4)リーダーシップ育成活動

地域におけるユースボランティアリーダーの育成は、YMCA誕生の歴史が示す最も重要な使命として位置づけられている事業といえます。YMCAの様々な活動に参画することにより、青年がリーダーシップを身に着け、将来、社会におけるリーダーとして活躍し、社会貢献を果たしていくための実践トレーニングの場として捉えています。

2016年度末に設置されたユースリーダー育成募金を年間寄附金活動に位置付け、120周年記念募金と合わせて広報を行ったことで、予想以上の募金が寄せられました。

夏期には、全道のリーダーを対象にYMCAウエルネスキャンプ指導者資格の取得を目指した研修を実施しました。また、全国規模の東日本YMCAユースリーダーズフォーラム、YMCA全国ユースリーダー研修会にリーダーを派遣しました。

中高年対象のシニアボランティアは、発達支援水泳クラスリーダー、児童デイサービス水泳リーダー、スキースクールでのリフト補助ボランティア、野外活動のサポートなど、多くの活動の機会を提供することができました。

また、スタッフの育成、担当者間のネットワークづくりを目指し、各事業担当者会・研修会、ボランティア関連会議、東日本地区YMCAスタッフ研修会など、全国関連会議・研修に積極的にスタッフを派遣しました。さらに、チャイルド、英語、ウエルネス、キャンプの事業別担当者会を組織し、ランチ横断的な事業別課題の解決、新規プログラム開発への取り組みを始めました。

2. 国際理解・国際協力事業

(1)国際交流活動

国際的なネットワークが国際協力団体としてのYMCAの大きな特徴であり、国際事業は必ずカウンターパートとなる現地のYMCAと協働する形を取っており、相互のニーズに対応していることを原則としています。

ベトナムボランティアワークの旅は22年目を迎えましたが、ベトナムYMCAの内部的な問題が生じ、実施が危ぶまれました。問題の解決には時間を要するため、正常化するまで一時的に受け入れ団体を変更し、継続して教室建設プロジェクトを実施することができました。また、夏のチミケツプキャンプには、アメリカ、台湾からキャンプ指導者12名を受け入れました。12月には、日中韓YMCA平和フォーラムが韓国光州市で開かれ、北海道から総主事が参加しました。会期中、韓国群山YMCAとのパートナーシップ関係が48年ぶりに確認され、並行して開催された日韓連絡委員会で公式にパートナーシップ関係の復活が確認されました。また、中国成都YMCAからパートナーシップ締結に向けた交流事業について打診があり、今後の具体的な関係づくりについて検討を進めます。同じく12月には、シンガポールYMCAの11回目のファミリースキーツアーを札幌近郊の札幌国際スキー場で受け入れました。昨年の評価に基づき、これまでのルスツリゾートからの宿舎、会場変更でしたが、参加者が大幅に減少しました。交流事業の意義が薄れつつあり、次年度に向けては、YMCAとしての関わり方を再検討することとしました。

(2)語学教育活動

国際協力・国際交流活動を行うにあたり、相互コミュニケーションの手段となる英語教育を幼児の段階から行いました。様々な国際活動や国際会議に主体的に参加し意見を述べ、協議しながら共に生きることを実践することのできる青少年の育成が使命であることを覚えつつ、保育プログラム・アフタースクール登録者の実習を中心に、YMCAの特徴を生かしたYMCAらしい英語教育を目指し、国際協力募金や国際関連事業との連携を図りました。各 brunch の英語担当者による担当者会を組織し、全国の事業担当者会に参加し、一貫性のある英語教育に向けてカリキュラム、指導法の見直しを始めました。

3. 青少年支援事業

(1)幼児保育活動

全日制の事業として、各 brunch の保育事業の募集活動は、札幌・とち帯広 brunch は目標に対しては安定的に遂行することができましたが、北見は振るいませんでした。0～2歳までの就園前のプレスクールの設定による5歳までの一貫した保育の流れと多様な実習、送迎システムが付加価値として受け止められています。

保育環境の質的向上を目指し、札幌幼稚舎では、札幌市の認可外保育施設として登録し、求められる基準に則った運営に努めました。北見保育園 Joy では、地域裁量型の認定子ども園への移行を検討し、市担当部局との折衝を始めました。とち帯広幼稚保園は、毎年音更町の補助を頂いていますが、財政的には厳しい状況が続いています。帯広市から音更町に移転して保育事業を中心に展開している現在の事業モデルが適正であるのか、評価が必要となっており、具体的な変革を伴う将来計画が求められています。

(2)アフタースクール

札幌、北見 brunch では安定的に運営することができました。とち帯広 brunch では対象校の絞り込みを進めましたが、依然、送迎の効率化に課題を抱えています。両親が共に働いている家庭の要請に応えるプログラムは、これからもニーズが高まると考えられますが、行政によるサービスや同種の施設が増加しており、政策的にも保育園の待機児童解消対策の延長線上にあるなど、外部環境は急速に変化しています。現状では、新子育て支援制度の枠組みに収まるよりも、多様な実習や学校と自宅を結ぶ送迎システムなど、民間の学童保育施設としてYMCAの独自性や付加価値を高めることが求められます。

(3)発達支援クラス活動

近年、発達に課題のある青少年が通常学級、通常プログラムに広く参加することが社会通念化してきており、YMCAにおいても研修を通じてスタッフの対応力の向上を図ってきました。札幌連、市・道などの研修への参加や内部研修により、療育の新しい取り組みについての情報を収集しながらスタッフの提供療育の質的向上にあたってきました。2017年度より義務付けられた利用者評価調査からも一定の評価を頂き、事業所は待機待ちが続いている状態となっています。今後、ランチにおいて、保育園等子育て支援プログラムと合わせて展開されるべき事業として開設を検討していきます。

(4)幼児・少年等文化教養活動

単独プログラムとして参加している会員の他、アフタースクールの実習や幼少体育活動、語学教育活動参加会員の複数受講プログラムとして付加価値を高める活動となっています。体育、語学に加えて、将棋、お花など幅広い学習機会の提供を図るとともに、既存プログラムの内容の充実を図りました。また、成人フィットネスとの連携を図り、成人会員の増強を意図した成人対象プログラムの企画を実施しました。

(5)専門学校

青年の全日制活動として重要な事業である専門学校は、英語学科単独となって、新卒者だけでなく、既卒者の学び直しの学校としての機能も求められています。現場実習の機会を増やし、実務訓練を重視したカリキュラムを実施するとともに、新たなインターンシップ企業との連携を深め協力関係を築きながら、英語を使う実習を積極的に実施しました。また、カナダ海外研修だけではなく、国内で実施されるYMCA関連の国際研修も選択に加え学生がより多く様々な経験ができるように配慮しました。

3年目となった日本語短期集中クラスは、募集の中心となる台中YMCAの内部事情の変化や、韓国釜山大学の担当教授の交代などの影響により、昨年度に比べ参加者が伸びず、開設時期・季節による差異を考慮した目標設定が必要とされました。運営体制についても、通訳だけではなく、教務・プログラム運営を含め、受け入れ期間中専従できる体制を整備することが課題となっています。次年度に向け、3月の台湾での募集説明会に担当者が参加し、プロモーション活動を行いました。

(収益事業)

1.その他の事業

(1)介護保険サービス事業及び障害者福祉サービス事業

地域の要請に応えるため、ケアマネージャーによる介護相談事業、ヘルパー派遣事業を行いました。ケアマネージャーの定年退職を迎え、新たな人材の確保が難しいこと、また、現行事業規模での収支の健全化が難しいこと等を考慮し、2017年度をもって、介護サービスセンター事業を休止することとしました。利用者については、全員関係施設にご紹介し、スムーズに引継ぎ業務を終了することができました。

(2)貸館、物品販売、自販機手数料事業

地域の要請により可能な限り施設、駐車場を提供する他、全国のブランディング作業に合わせ、参加会員がプログラムに参加するために必要な教材を常に提供、販売できるよう準備を進めました。特に札幌ランチでは、未登録駐車車のチェックをこまめに行い、駐車料金の増収を図ることができました。また、会員サービスの一環として水分補給のため、各種自販機を継続設置しました。

(管理部門)

(1)法人業務

過年度来、作業していた北海道YMCA中期3ヶ年計画を策定し、その1年目として執行を開始しました。また、北海道YMCA創立120周年にあたり、4月の創立記念礼拝・講演会を皮切りに、記念グッズの作成・販売、記念ジャズコンサート、中高生国際キャンプ、リトミック講習会・体験会、クライミングウォール設置、記念会員大会、120周年記念募金などの記念事業を計画し、実施することができました。特に11月に開催した会員大会は実行委員会組織により企画・実施し、全道のブランチから会員が参加し、会員活動の活性化を図ることができました。

2016年度に設置された将来構想委員会により、札幌ブランチの将来構想について継続して検討を続けました。次年度からは、一層具体的な検討を進める委員会の設置が計画されています。

日本YMCA同盟・全国YMCAと歩調を合わせ、YMCAブランドコンセプトに基づく見直しを推進しました。特に新たに開発されたブランドロゴ、スローガンの浸透を図るために、様々なコミュニケーションツールの見直しを図り、広報活動の強化を進めています。

会員運動の担い手となる維持会員、賛助後援会の増強を図り、着実に増えてはいますが、募集方法や募集ツールの作成に改善の余地が残されています。また、設置募金の種類が増えることに伴い、寄附金取り扱いに関する募金規程を整備し、今後さらに具体的な取扱規程の作成を進めていきます。

(2)北海道大学YMCA、ワイズメンズクラブとの協働

北海道大学YMCAと連携し、創立記念礼拝・講演会、会員大会、YM・YWCA合同祈禱週特別集会など、各種集会、120周年記念プログラムへの参画を促すとともに協働で実施しました。都市YMCAと学生YMCAが互いに役職を担い協力し合う中で、双方を含めた将来構想が持てるよう意図しています。

また、ワイズメンズクラブ北海道部の各クラブと協働してYMCAプログラムの資金的・人的支援を実施するとともに、YMCA運動の担い手として各種委員を担っていただきました。また、創立120周年記念コンサートを実施し、記念募金にも多大な支援をいただきました。

(3)東日本大震災支援活動（災害支援活動）

東日本大震災や原発被災者支援のための募金活動を実施しましたが、避難者支援団体の多くが解散したことに伴い、広報手段がなくなり、新たな支援事業の展開について検討することが必要となっています。東日本地区YMCAの「ふくしまYMCA」プロジェクトとの連携を探りながら、今後の支援方法を探っていきます。また、継続して熊本地震の被災者支援・被災YMCA支援募金を実施し支援しました。さらに、120周年記念事業としてチミケップ中高生キャンプに、過年度、台風被害を受けた南富良野町から5名の中高生を招待しました。